



## MMFの見解 携帯電話と子供

携帯電話は子供の健康に何らかのリスクを生じるのでしょうか？

よく提起されるこの疑問は、私たちがみな子供とその健康に関心を持っていること、また、携帯電話が私たちの日常生活においてどれほど重要なものになっているかということを反映しています。この文書は、この問題に関する主な見解をまとめたものです。

背景として、携帯電話に関する以下のことを知っておくことが重要です。

- ・ 携帯電話は、電波ばく露に関する国際的な制限値に従って運用されています。
- ・ これらの規格やガイドラインは、電波と健康に関する科学的データベースの詳細で独立した評価に基づいています。
- ・ 科学専門家のレビューや、政府当局は、これらのガイドラインは、子供を含む全ての人々に対する防護手段として信頼できるという結論で一致しています。

若い人々の携帯電話の使用に関する疑問は、英国政府の委託を受けたレビュー委員会「携帯電話に関する独立専門家グループ（IEGMP）」が2000年5月に発表した報告書に由来します（<http://www.iegmp.org.uk>をご覧ください）。IEGMPは、「若い人々は身体の発育状態と、生涯においてより長い期間にわたって携帯電話を使用すると予想されることから、（まだ発見されていない）恐れがもしあるならば、それは成人よりも若い人々に対して大きなものとなるだろう。」と理由付けています。そのため彼らは、「必要不可欠ではない場合」には、子供は携帯電話を使用させないよう助言しています。英国放射線防護庁（NRPB）は、この報告書の2005年1月付の更新版で、子供の携帯電話の使用制限に関するIEGMPの勧告は「用心措置として依然として適切なものです。」と述べています。

（[http://www.hpa.org.uk/radiation/publications/document\\_of\\_nrpb/abstract/absd15-5.htm](http://www.hpa.org.uk/radiation/publications/document_of_nrpb/abstract/absd15-5.htm)をご覧ください。）

米国食品医薬品局（FDA）は、NRPBの報告に対して異なるアプローチを採用しています。これは、「安全性と子供の携帯電話の使用に関しては、無線通信機器が子供を含むユーザーに危険を生じるということを示す科学的証拠はありません。」というものです。

（<http://www.fda.gov/cellphones/>をご覧ください）

2001年、フランス政府に委託された専門家グループ（ズミルー報告）は、同国の保健総局に対し、子供の携帯電話の使用制限を正当化する明確な科学的証拠はないと助言しています。ただし、「用心深く回避する」手段を推奨しています。

（[http://www.sante.gouv.fr/htm/dossiers/telephon\\_mobil/2tele.htm](http://www.sante.gouv.fr/htm/dossiers/telephon_mobil/2tele.htm) をご覧下さい。）

他にも、FDAと同様の見解を採用している機関があります。

- ・ 世界保健機関（WHO）：「国際的なガイドラインは、住民だれもを防護するために採用されています。これは、携帯電話を使用しない人々と同様に、携帯電話ユーザーや基地局の近くで働く人々又は近くに住む人々が含まれています。」

（[http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts\\_press/efact/efs193.htm](http://www.who.int/docstore/peh-emf/publications/facts_press/efact/efs193.htm)）

[ml](#)をご覧ください)。

- ・ オランダ保健評議会：「本（専門家）委員会は、子供の携帯電話の使用制限については、健康に基づく理由はないと考えています。」(<http://www.gr.nl/pdf.php?ID=886>をご覧ください)

専門家委員会や政府当局による過去10年間の報告は全て、国際的なガイドラインに従って運用されている携帯電話の使用によって、何らかの健康への悪影響が生じるということについては科学的には立証されていませんし、これは年齢に関わるものではないという点で一致していることは重要なことです。

政治的及び科学的論争は今後も続くものの、子供が携帯電話を使用すべきかどうかを決めるのは親たち自身だというのは明らかです。親たちは概して、子供と親の両方が携帯電話を持つことによる安全と安心という観点の恩恵から、子供に携帯電話の使用を許可していると思われ

ます。私たちの役割として、MMFは、全ての消費者が携帯電話の安全性について自信を持てるという強固な科学的根拠があると信じています。また私たちは、親たちが子供に携帯電話を使わせたいかどうかを決定するということを支持するものです。

2005年4月